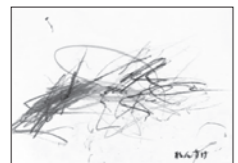


【今号の特集】
■はちゅるい館へ行くこう!!
■子育てママのつぶやき
■だれでも簡単に作れるベビーヘアバンド♪
■探検隊が市長と熱く話してきました!



「くるま」
うさみ おうすけくん(2才)



「くるま」
うさみ れんすけくん(2才)

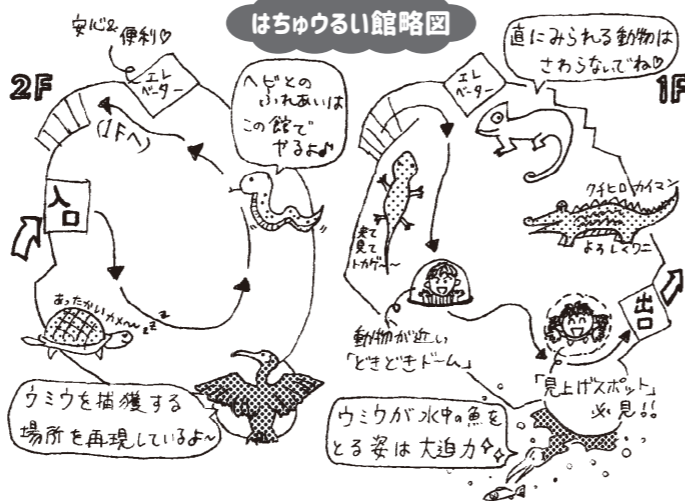


パパママ、
大人も
楽しい♪

日立市の鳥
全国初!爬虫類とウミウの複合施設

はちゅるい館へ行くこう!!

かみね動物園内についてオープンした「はちゅるい館」。約40種類の爬虫類のうち30種類が新しく仲間入りしています。水中のヘビを下から覗けるスポットもあります。二階建ての施設にはエレベーターもあり、ベビーカーでも安心。一歳の子供でも見られる高さで近さ。寒くても、建物内の暖かさが嬉しいのです。



■ 1 ■

めくってね

だれでも簡単に作れる
ベビーヘアバンド♪

ヘアバンドをつけて可愛くしたい。でも意外とお手頃な価格や好みにあったものがない。そんなママたちのために、誰でも作れる簡単なベビーヘアバンドをご紹介します。色や飾りを変えれば、男の子でも使えますよ!お祝いや普段使いなどで着けてみてはいかがでしょうか。

用意するもの

- ・ゴムひも (普通のみもだと締め付けがあるため、伸縮性のあるタイプにします。だいたい1mを目安に買っておくとう便利です。)
- ・飾り付けたリボンやワッペン・まち針又クリップ2つ・ボタン付け用の糸・メジャー・ハサミ
- ※クラフトショップに行くとき一気に入念のもの揃います。百円ショップにも、かわいいリボンやワッペンなどがあってあっさりしますよ!

1 ぐるりとメジャーで頭の長さを測ります。

頭の長さ+縫い代2cmを足した長さにします。メジャーの上にゴムひもを乗せて、ゴムひもの長さまでクリップで両端を止めて、ハサミで切ります。

2 ゴムひもを端と端に合わせてクリップでとめたら、縫い代1cm分の長さの辺りまで測り、まち針又はクリップで留めます。

波縫いで縫っていきます。

縫うのはここ!

3 装着時、痛くないように端を縫い付けます。

一本の輪っかが出来上がりました。

デザインを決め、リボン等をしつかり留めましょう。

★ ★ ★ 完成 ★ ★ ★

星や王冠などで男の子用にも!!

ご協力ありがとうございました かみね動物園様

【発行】日立市 日立市ホームページ・ひたちすくすくガイド
【編集】ひたち子育て情報探検隊:天野里佳 大西麻里子 鬼澤亜矢子 加古由岐子 朽津美穂 小林実由貴 齋藤香里 福地美喜 皆川泰子 宮崎佳衣 大野ゆき子 小室有梨
【問合せ先】日立市保健福祉部子ども局子育て支援課 〒317-8601 日立市助川町 1-1-1 ☎0294-22-3111(内線 338) IP☎050-5528-5071 fax0294-22-3011 ✉kodomo@city.hitachi.lg.jp



日立で四児の子育てをしています☆

一昨年、女の子を出産し、四児の子育てがスタートしました。赤ちゃんが産まれてからさらに洗濯物が増え、平日は2回洗濯機を回しますが、週末は小学生達が体操着を持ち帰り、未娘が保育園で使うパジャマやシャツが戻ってくるので何度も洗濯をします。食事の支度や片づけも、人数も食べる量も増えたので時間がかかるようになり、仕事も再開しました。秋は小学校・幼稚園・保育園と、子どもの運動会が3つありました。一番上の子が小学五年生なので、小学生の父兄も五年目にもなりますが、十年後もまだ小学生の父兄をやっていることになり、ちょっと長めの子育てになりそうです。

上の二人は週五回、三番目が週二回習い事をしている。最近の悩み事は、夕方一番下の子の保育園のお迎え時間と習い事の送迎時間のスケジュールの調整です。なるべく保育園のお迎えついでに他の子の送迎をしますが、習い事の時間が合わない、夕方から一時間ごとに車を出すこともあります。夕飯の準備は別の時間帯に作っておき、ご飯を食べる子の分だけ、その都度、電子レンジで温めて食べさせています。

送迎が終わると上の子ども達に宿題をさせるために声かけしながら(後半はほとんど大声)大量の血洗いをし、未娘のお風呂、寝かしつけが続くとくったりしてしまいます。絵本の読み聞かせをしてあげられないまま、他の子ども達を放置したまま、いつの間にか自分自身が一番に眠ってしまう頃です。

はちゅるい館 アイテム1

ドライヤー グリップ



女の子の髪の毛を乾かす作業って時間がかかりませんか?子ども一人でドライヤーを扱うのは危なくて任せられない...これはドアなどに固定できるので小さな子でも一人で髪の毛を乾かすことができます。

子育てママのつぶやき

探検隊ママがつづる日立市の子育て



子どもすくすくセンター
住所: 神峰町 1-10-1
TEL: 0294-23-5522
開館時間: 8:30-18:30
休館日: 12/29-翌1/3
他臨時休館日あり

子どもすくすくセンターが育児の支えに

子育ての中で一番つらかった時期は、二歳になったばかりの長男を育てながら、長女の授乳をしていた二児の子育ての頃です。東京から引越してまもなく妊娠、出産したので、まだ日立でママ友が少なかった頃でもあり、慣れない育児で余裕がありませんでした。午前中は二人を連れてスーパーに買物へ行くのが日課でしたが、長女が少し大きくなると、スーパーのカートをめぐる、どちらが乗るのが争いになったり、お菓子コーナーから離れなかり、買った物だけでヘトヘトしたり、その当時、家から歩いて行かれる「子どもすくすくセンター」にはとてもお世話になりました。家にいて一日中子どもと一緒に、家事が思うように進まず、疲労がたまってくる夕方の時間帯は子どももくすくすとして親子でともイライラするので、そんな時はすべての家事を放り出して、気分転換にこうした子育て支援施設に遊びに行ったりすることもありました。ベビーカーに上の子を乗せ、抱っこ紐で赤ちゃんを抱きながら歩いているママをみかけると、私も同じような姿ですくすくセンターに向かっている平和通りを歩き、必死だったあの頃を思い出します。

歳が離れた兄弟、歳が近い兄弟

最近の我が家は一週間分の買い物をインターネットで注文し、食材は宅配で届けてもらうので子連れでスーパーに行くストレスから解放されました。毎日スーパーに行く時間も労力もなくなり、無駄な買い物もぐっと少なくなりました。一歳九か月になる未娘は保育園に通っているというもあり、子育て支援施設で遊ぶ機会は、ほとんどありません。家族で出かけても、小学生達が行きたい場所が優先になっていて、歳が離れている兄、姉を持つ未娘がかわいそうになります。でも家の中では、上の子達が未娘に絵本の読み聞かせをしてくれたり、一緒に遊んだりお世話をしてくれてケンカはあまりありません。一方、歳が近い小学生の長男と長女の言い争いは激しいですが、学校でのごや友達のことを二人にしか分らないノリで話して楽しそうにしています。兄弟四人が集まると、些細なことで誰かが誰かとケンカをし、他の子が加わって泣いたりわめいたり大騒ぎです。私もいつの間にか参戦し、気づけば私が一番大騒ぎしていることも... (汗)。大人げない自分の子育てに日々反省を繰り返しながら、子ども達の笑顔や寝顔に癒され、元気をもらい、子ども達と共に成長を重ねる毎日です。

はちゅるい館 アイテム2

プログラム機能付き 掛け時計



好きな曜日、時刻をセットするとメロディで知らせてくれる時計。たくさんセットできるので、毎日の習い事の送迎時間だけでなく、子どもの登校、登園時間5分前や風呂の時間、就寝時間にもメロディを鳴らして、子ども達本人にもわかるようにしています。

みきママ
十二年前から日立市へ移住し、十一歳、九歳、五歳、一歳の一男二女の子育てをしています。

あなたも子育て中のあれこれ、すくすくプチでつぶやいてみませんか?

件名に「すくすくプチ」と、本文にお名前を入れて(ペンネーム可) kodomo@city.hitachi.lg.jp (日立市子育て支援課) までお寄せください。

探検隊が市長と熱く話してきました!

2018年11月26日、日立市役所で行われた市長と子育て世代の市政懇談会に探検隊が参加してきました。



小川春樹市長に聞いた!ママ友にひろめてほしい ここがすごい!「ひたちらしさ」

日立には良いところが沢山あります。海あり!山あり!あふれる自然!南北に広がる土地ならではの豊かな食べ物!3.11の震災にも負けない固い地盤!茨城県唯一の動物園!世界をリードする技術力をもった「ものづくりのまち」!桜もきれいです。「ないものねだり」ではなく「あるもの探し」をしましょう。さらに「あるもの磨き」に力を注ぎましょう!子育てしやすいまちづくりを頑張っています!

始めは緊張していた探検隊。「気になることがあったら何でも話してね」と市長から声をかけてくださり、色々話ことができました。お茶目な一面もあり、親しみを感じました。



子育て応援事業

市長

日立市では子育て世帯を応援するため、マイホーム取得助成、マタニティ子育てタクシー費用助成、出産祝金、マル福受給者高校生まで拡大など様々な取り組みをしています。その一つとして産前・産後ママサポートは、無料でヘルパーを派遣しています。この無料派遣は県内初!の事例なんですよ。



何かと物入りな子育て世代にとって、これらの制度は助かります。「必要なことはスピード感をもって」取り組んでいただいていることがありがたいです。また、子どもの具合が悪いときなど、優しく教えてもらった「ひたち健康ダイヤル24」には、本当に助けられました。

ファミリーサポート

市長

ファミリーサポートセンターは、育児等の援助を受けたい人と援助したい人が会員となり、お互い助け合う会員組織です。保育園や幼稚園、放課後児童クラブ終了後の子どもの迎え、預かり、病後の子どもの預かりや宿泊を伴う預かりなど、幅広く、かつきめ細かなサービスを受けることができます。



日立市外から引っ越してきました。仕事が忙しく近所に子育てを頼める親族等もいなかったので、ファミリーサポートの方には大変にお世話になっています。ファミリーサポートさんのご自宅で子どもの預かりなどを担当していただいているので、自宅が散らかっている時でも安心して?サポートをお願いできるのが嬉しいです。

ショッピングセンター(東滑川町)



何かしようと思う度、子連れで遠出をしなくてはならないのは大変です。もっと日立市内で親子でお買い物をしたり、遊んだりできる場所があったらいいですね。

市長

東滑川の公設市場跡地に、日立ライフが商業施設を整備しています。スーパーや映画館などが入り、2020年春頃に完成予定です。また、施設内に近くに湧き出している温泉を利用した足湯の整備も予定しています。

公園への要望



駐車場があり、木陰のある公園を作ってほしいです。プラスチックの遊具でなく親から子へ受け継がれるような幼児でも遊べる遊具を整備してほしいです。

市長

市内の公園においては、子どもたちが遊具を安全に使用するため日頃の点検や、樹木と駐車場等の施設整備も併せた適正な管理について、今後も検討していきたいと思えます。また、2019年夏には、東滑川海浜緑地が、新しい大型複合遊具や芝滑りなど、家族で遊べる緑豊かな公園としてリニューアルオープン予定です。

コミュニティ

市長

昭和49年の国体の時に、まちをきれいにするなどの目的で始まりました。それ以来、日立市には小学校単位にコミュニティ組織があり、生活環境の向上や文化継承に取り組んでいます。おもちゃライブラリー開催や防犯サポーターとしての活動を通して、関わってくれることで、地域の安心につながっています。



おもちゃライブラリーで大変お世話になりました。ボランティアの方に子どもたちを育てていただき感謝しています。大きくなって声をかけていただき、防犯にも繋がっています。育児相談にもしてもらいました。そこでママ友もできました。

小学生

市長

日立市は小学校入学時にランドセルをプレゼントしています。共働き家庭も含め、子どもが放課後に安心して過ごせるよう放課後子ども教室を田尻小・滑川小・塙山小の各学区に作りました。今後も増やしていく予定です。児童クラブも小学4年生までの利用から6年生まで延ばしました。日立製作所から支援を受けて行っている「理科クラブ」は今後も継続していきます。また、お子さんが安全に勉強できるよう、来年夏までにすべての幼稚園、小・中・特別支援学校にエアコンを設置できるよう進めています。



ランドセルは高価なものなのでとてもありがたいです。赤・黒以外の色も選べるともっと嬉しいです。昨年の夏、とても暑く子どもの体調が不安だったので、エアコンの設置、ぜひお願いしたいです!

子育て情報の一括化



子育ての情報を探そうと思った時、冊子や市報、ホームページなどあって、自分が知りたい情報がどこにあるかわからない時があります。あと、一時預かりの予約をするとき、直接行かなければならない施設では、小さい子どもを連れて行くのが大変でした。子育てに関するアプリなどを作って、情報や申し込みを一括化してもらえるといいのですが...

市長

子育て中のお子さんの年齢が幅広いので一つにまとめるのが難しいところもあるのですが、忙しいお母さんの助けになるように子育てに関するアプリなどを考えていきたいと思えます。

病児保育



子どもは急に体調を崩すことが多く、仕事をしているとすぐに迎えに行けなかったり、何度も会社を抜けたり休んだりすることも気が引けるため、お母さんが働きにくいことがあります。病児保育があったり、急な利用もできるサポートがあると働くお母さんが増えると思うのですが?

市長

お子さんが体調を崩すのはとても心配で、そんな中お仕事は確かに不安も多く大変だと思います。病児保育は病院との連携や、保育士、看護師等のマンパワーの確保が難しいのですが、お母さんが働きやすい環境づくりを考えていきたいと思えます。

子育て世代への思い



子育ては思い通りにいかないことの連続です。ママ達が笑顔で子育てしていくために、子育てしてない世代や、職場に対する子育てへの理解が広まると嬉しいです。

市長

子育て世代の皆さんのご意見を、直接うかがうことができる懇談会を楽しみにしていました。本日は、切実感あるご意見やご要望をいただき、現在の取組が十分ということとは決してなく、さらに検討していく必要があることもよく分かりました。皆さんの思いを十分に受け止め、限られた人員と予算の中で、しっかりと努力していきたいと思えます。